「地下水に関する世論調査」の概要

令 和 ４ 年 １ 月
内閣府政府広報室

調 査 対 象　全国18歳以上の日本国籍を有する者　3,000人
有効回収数 1,701人（回収率56.7％）

調 査 時 期　令和３年９月30日から令和３年11月７日

調 査 方 法　郵送法

調 査 目 的　地下水に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

調 査 項 目　１　地下水に関する認識について
２　地下水マネジメント推進への取り組みについて

調 査 実 績　「人と水とのかかわりに関する世論調査」（平成６年９月）
「水循環に関する世論調査」（平成11年８月）

そ の 他　１　新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、調査員と調査対象の方との接触を回避するため、郵送法で実施した。
２　平成11年8月調査までは調査員による個別面接聴取法で実施しているため、郵送法で実施した令和３年９月調査との単純比較は行わない。
また、平成27年度までは、調査対象者の年齢が20歳以上であったが、平成28年度以降は18歳以上の者を対象に実施している。
３　図表の数値(%)は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、内訳の合計が100にならないこともある。

１　地下水に関する認識について

（１）地下水に関する認識

問１　あなたは、地下水についてどのようなことを知っていますか。（○はいくつでも）

	（上位６項目） 令和３年９月
・夏は冷たく冬は温かい水である	69.3%
・いったん汚染されると回復には長い時間がかかる	53.7%
・川や湖などにつながっている	52.4%
・ペットボトル入りの飲料水の原料となっている	44.3%
・地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある	44.2%
・化学物質などによる地下水汚染がみられる	42.9%
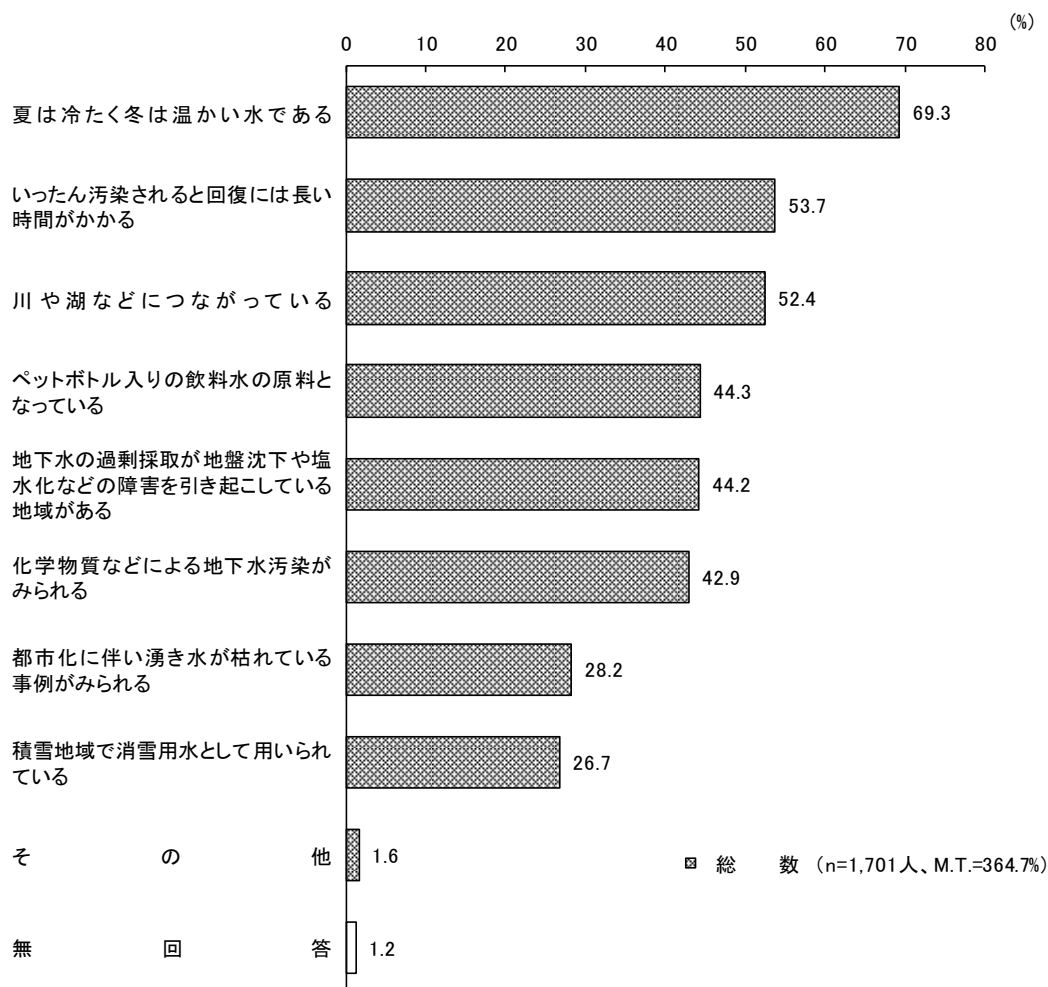
表１　地下水に関する認識

（複数回答）

	該当者数	夏は冷たく冬は温かい水である	いったん汚染されると回復には長い時間がかかる	川や湖などにつながっている	ペットボトル入りの飲料水の原料となっている	地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある	化学物質などによる地下水汚染がみられる	都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる	積雪地域で消雪用水として用いられている	その他	無回答	計（M.T.）
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	69.3	53.7	52.4	44.3	44.2	42.9	28.2	26.7	1.6	1.2	364.7
〔性〕												
男性	835	72.5	55.6	50.7	49.3	50.1	44.3	32.2	28.7	2.3	1.3	386.9
女性	866	66.2	52.0	54.2	39.5	38.6	41.6	24.2	24.8	1.0	1.2	343.2
〔年齢〕												
18 ～ 29 歳	166	39.2	34.9	50.0	31.3	15.7	36.1	10.8	15.7	1.2	3.6	238.6
30 ～ 39 歳	222	52.3	40.1	47.7	43.7	27.0	34.2	18.0	18.5	3.6	1.4	286.5
40 ～ 49 歳	281	70.5	45.2	50.2	44.1	33.5	39.5	18.5	23.5	2.5	1.1	328.5
50 ～ 59 歳	295	70.2	56.6	47.1	43.7	52.9	45.1	32.5	30.8	1.4	0.3	380.7
60 ～ 69 歳	298	80.9	63.8	58.7	48.3	55.7	48.3	33.2	31.5	0.7	0.7	421.8
70 歳以上	439	80.0	64.5	56.5	47.4	56.9	46.9	39.6	31.2	1.1	1.4	425.5

表１－参考　地下水に関する認識

（複数回答）

	該当者数	夏は冷たく冬は暖かい水である	いったん汚染されると回復には長い時間がかかる	化学物質などによる地下水汚染がみられる	地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある	都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる（注１）	川や湖などにつながっている	ペットボトル入り飲料水の原料となっている（注２）	積雪地域で消雪用水として用いられている	その他	特に知っているものはない	わからない	計（M.T.）
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成６年９月調査	2,113	70.2	※	43.9	42.4	27.7	※	17.0	21.7	0.1	8.8	2.6	234.4
平成11年８月調査	2,157	59.4	47.0	38.4	26.0	24.1	23.3	17.1	14.3	0.2	7.6	3.2	260.5

（注１）平成６年９月調査では、「都市化に伴い湧き水が枯渇している事例がみられる」となっている。
（注２）平成６年９月調査では、「ボトルウォーターなどの原料となっている」となっている。
（注３）平成11年８月調査までは、「あなたは、地下水のことについて、どのようなことをご存じですか。この中からご存じのことをすべてあげてください。」と聞いている。
（注４）平成11年８月調査までは、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和３年９月調査との単純比較は行わない。
（注５）※は、表の項目を調査していないもの。

（２）地下水の保全と利用のバランス意識

（資料１を提示して、調査対象の方に読んでもらってから質問） **問２　あなたは、地下水の保全と利用のバランスについてどのように考えますか（○は１つ）**

	令和３年９月
・保全すべき（小計）	42.3%
・できるだけ保全すべき	33.0%
・どちらかといえば保全すべき	9.3%
・保全と利用のバランスをとるべき	55.8%
・利用すべき（小計）	1.1%
・どちらかといえば利用すべき	0.6%
・できるだけ利用すべき	0.5%
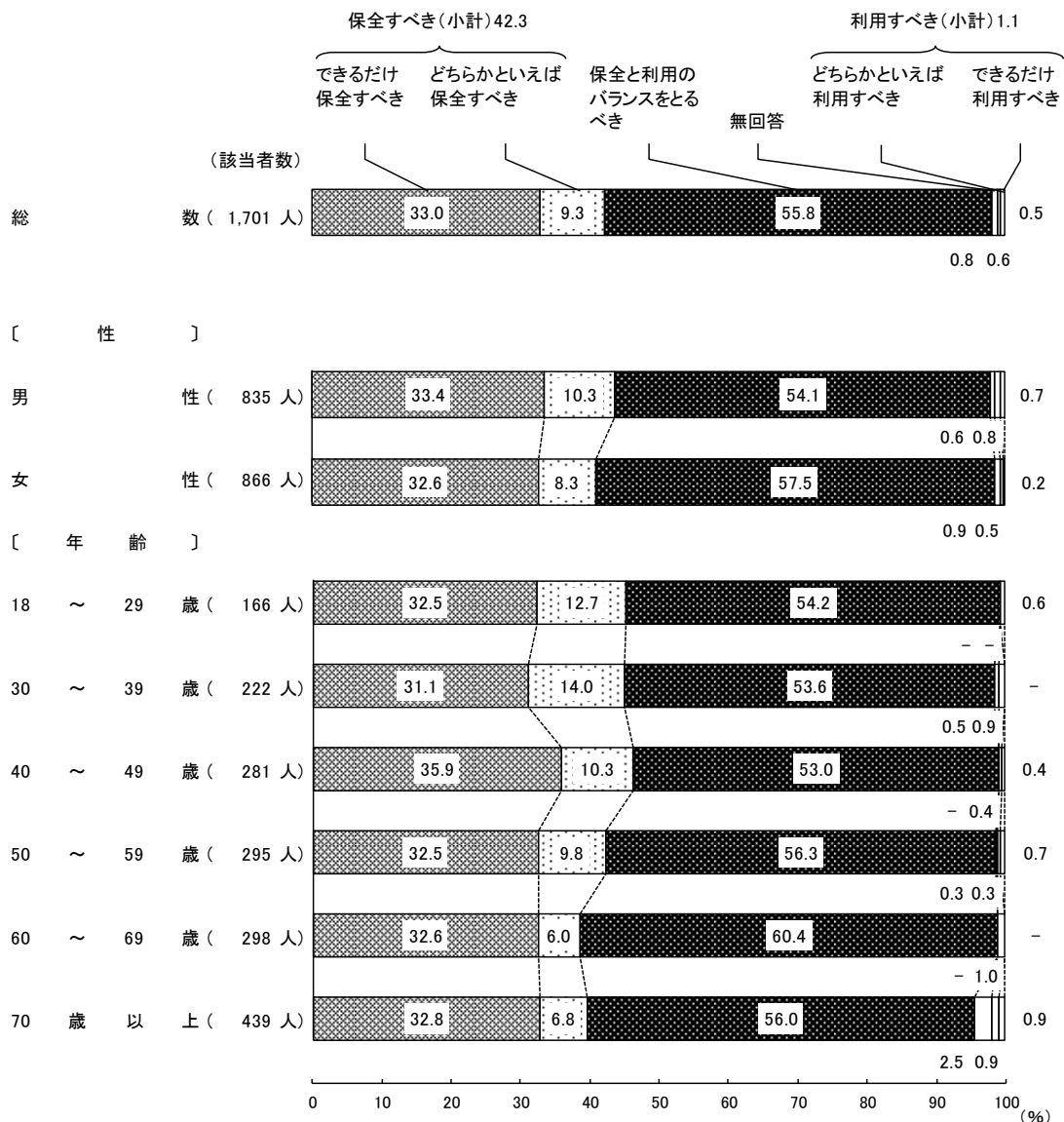
表２　地下水の保全と利用のバランス意識

	該当者数	保全すべき（小計）	できるだけ保全すべき	どちらかといえば保全すべき	保全と利用のバランスをとるべき	利用すべき（小計）	どちらかといえば利用すべき	できるだけ利用すべき	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	42.3	33.0	9.3	55.8	1.1	0.6	0.5	0.8
〔性〕									
男性	835	43.7	33.4	10.3	54.1	1.6	0.8	0.7	0.6
女性	866	40.9	32.6	8.3	57.5	0.7	0.5	0.2	0.9
〔年齢〕									
18～29歳	166	45.2	32.5	12.7	54.2	0.6	－	0.6	－
30～39歳	222	45.0	31.1	14.0	53.6	0.9	0.9	－	0.5
40～49歳	281	46.3	35.9	10.3	53.0	0.7	0.4	0.4	－
50～59歳	295	42.4	32.5	9.8	56.3	1.0	0.3	0.7	0.3
60～69歳	298	38.6	32.6	6.0	60.4	1.0	1.0	－	－
70歳以上	439	39.6	32.8	6.8	56.0	1.8	0.9	0.9	2.5

（３）水循環への意識

> 問３　地下水は、海などから水が蒸発し、雨となって地表に降り、川や地下水となって海に達する水の循環の一部となっています。あなたは、この水の循環を健全に保つことについてどう思いますか。（○は１つ）

令和３年９月

・健全に保つ必要がある（小計）	99.1％
・健全に保つ必要がある	83.5％
・どちらかといえば健全に保つ必要がある	15.6％
・健全に保つ必要はない（小計）	0.5％
・どちらかといえば健全に保つ必要はない	0.4％
・健全に保つ必要はない	0.1％
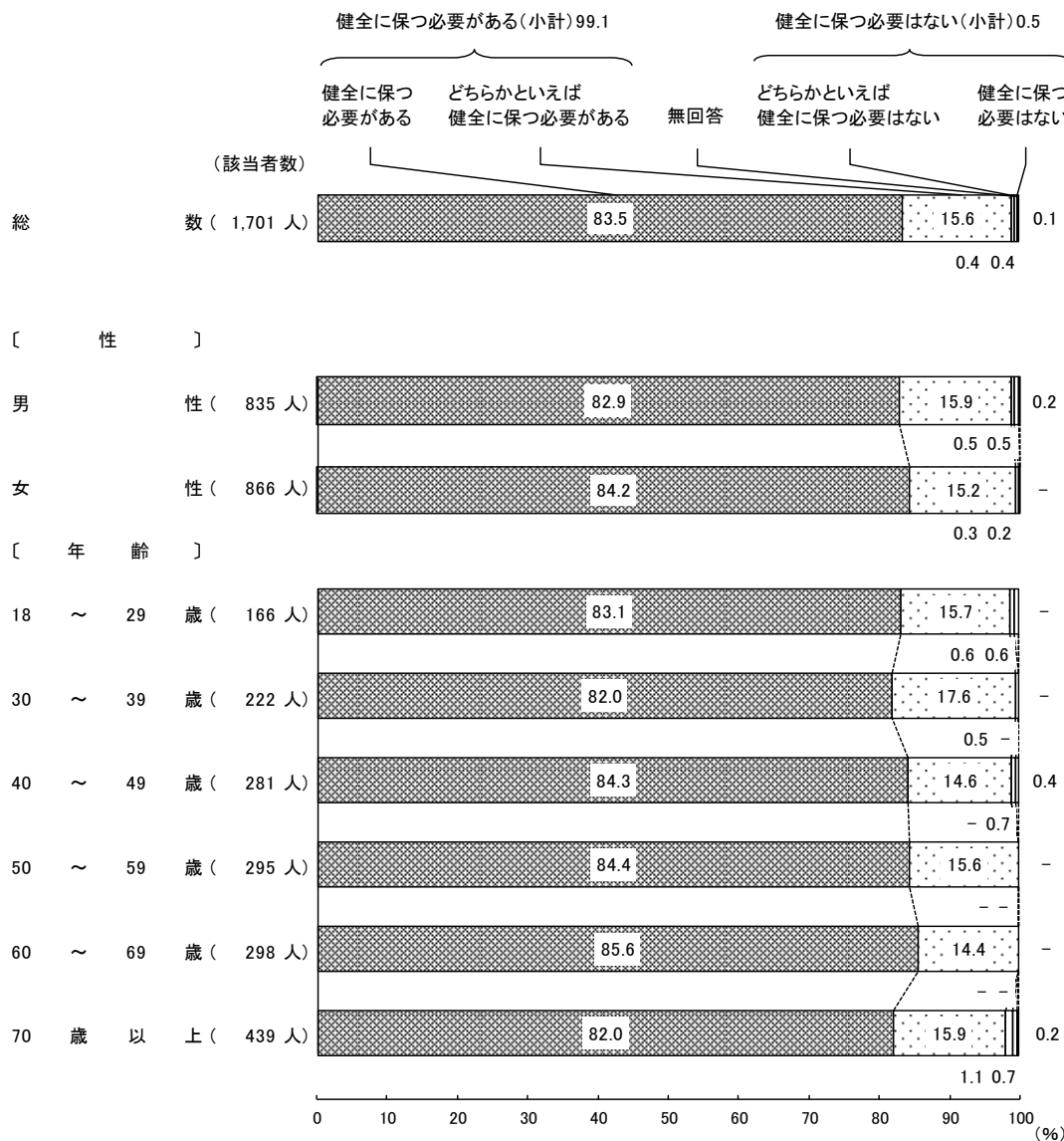
表３　水循環への意識

	該当者数	健全に保つ必要がある（小計）	健全に保つ必要がある	どちらかといえば健全に保つ必要がある	健全に保つ必要はない（小計）	どちらかといえば健全に保つ必要はない	健全に保つ必要はない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	99.1	83.5	15.6	0.5	0.4	0.1	0.4
〔性〕								
男性	835	98.8	82.9	15.9	0.7	0.5	0.2	0.5
女性	866	99.4	84.2	15.2	0.2	0.2	－	0.3
〔年齢〕								
18～29歳	166	98.8	83.1	15.7	0.6	0.6	－	0.6
30～39歳	222	99.5	82.0	17.6	－	－	－	0.5
40～49歳	281	98.9	84.3	14.6	1.1	0.7	0.4	－
50～59歳	295	100.0	84.4	15.6	－	－	－	－
60～69歳	298	100.0	85.6	14.4	－	－	－	－
70歳以上	439	97.9	82.0	15.9	0.9	0.7	0.2	1.1

２　地下水マネジメント推進への取組について

（１）地下水問題を予防・解決する取り組み

（資料２を提示して、調査対象の方に読んでもらってから質問）
問４　あなたは、行政が地域の関係者とともに地下水の問題を予防・解決する取組を行うことについてどう思いますか。（○は１つ）

	令和３年９月
・必要と思う（小計）	98.1%
・必要と思う	79.9%
・どちらかといえば必要と思う	18.2%
・必要と思わない（小計）	1.0%
・どちらかといえば必要と思わない	0.8%
・必要と思わない	0.2%
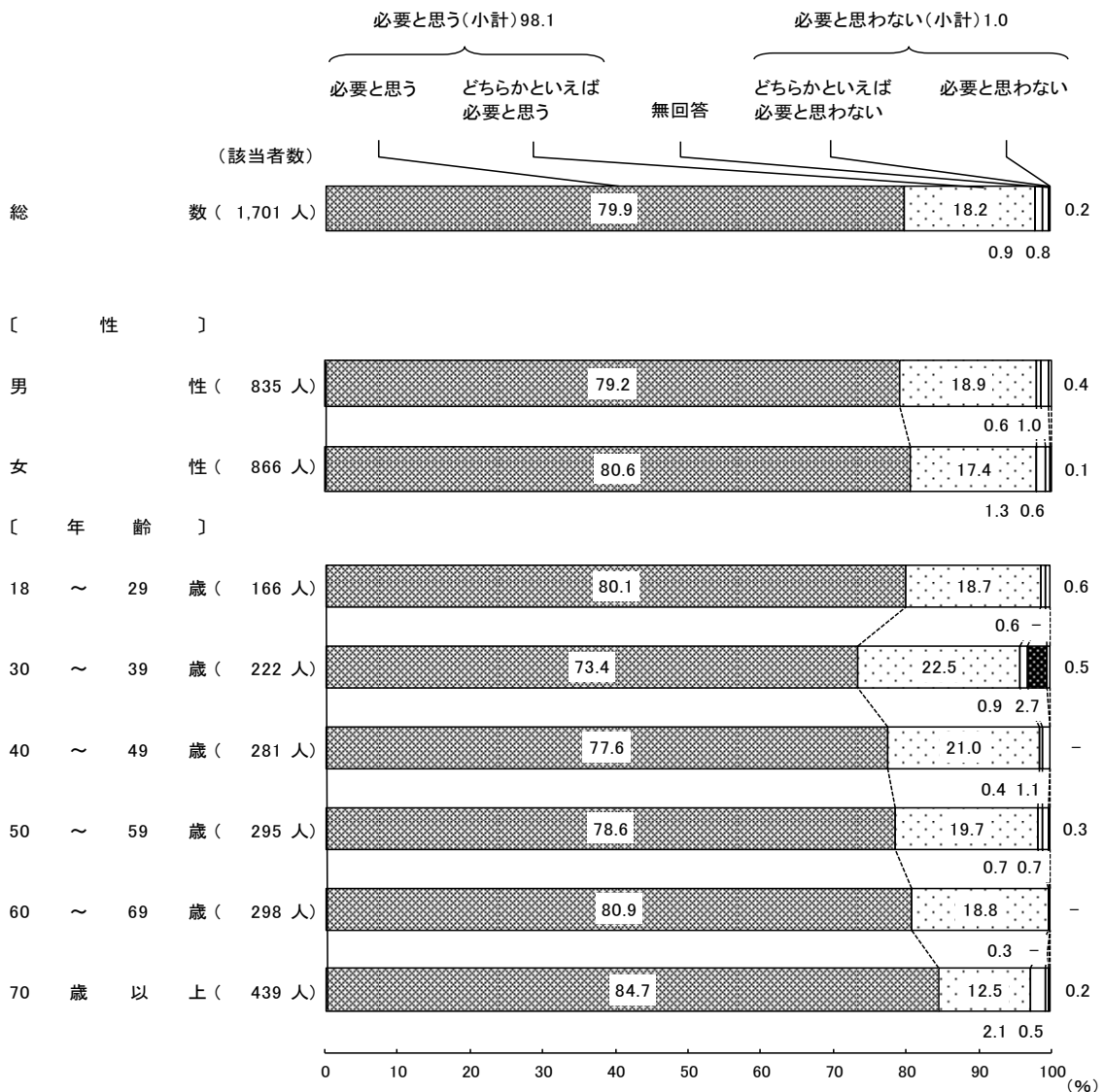
表４　地下水問題を予防・解決する取組

	該当者数	必要と思う（小計）	必要と思う	どちらかといえば必要と思う	必要と思わない（小計）	どちらかといえば必要と思わない	必要と思わない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	98.1	79.9	18.2	1.0	0.8	0.2	0.9
〔性〕								
男性	835	98.1	79.2	18.9	1.3	1.0	0.4	0.6
女性	866	98.0	80.6	17.4	0.7	0.6	0.1	1.3
〔年齢〕								
18 ～ 29 歳	166	98.8	80.1	18.7	0.6	-	0.6	0.6
30 ～ 39 歳	222	95.9	73.4	22.5	3.2	2.7	0.5	0.9
40 ～ 49 歳	281	98.6	77.6	21.0	1.1	1.1	-	0.4
50 ～ 59 歳	295	98.3	78.6	19.7	1.0	0.7	0.3	0.7
60 ～ 69 歳	298	99.7	80.9	18.8	-	-	-	0.3
70 歳以上	439	97.3	84.7	12.5	0.7	0.5	0.2	2.1

（２）行政が行うべき取組

問５　あなたの住んでいる地域で、地下水のくみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの地下水の問題が発生した場合に、行政、企業、住民などで構成する協議会などを設置する他に、あなたは、どのような取組を行政が行うべきと考えますか。（○はいくつでも）

	（上位４項目） 令和３年９月
・地下水の実態調査と分析を行うべき	81.4%
・森林整備、水田に水を貯めるなど地中に水を浸透させる事業を行うべき	41.2%
・地下水のくみ上げ規制などを行うべき	37.9%
・節水の取組を推進すべき	33.6%

（複数回答）
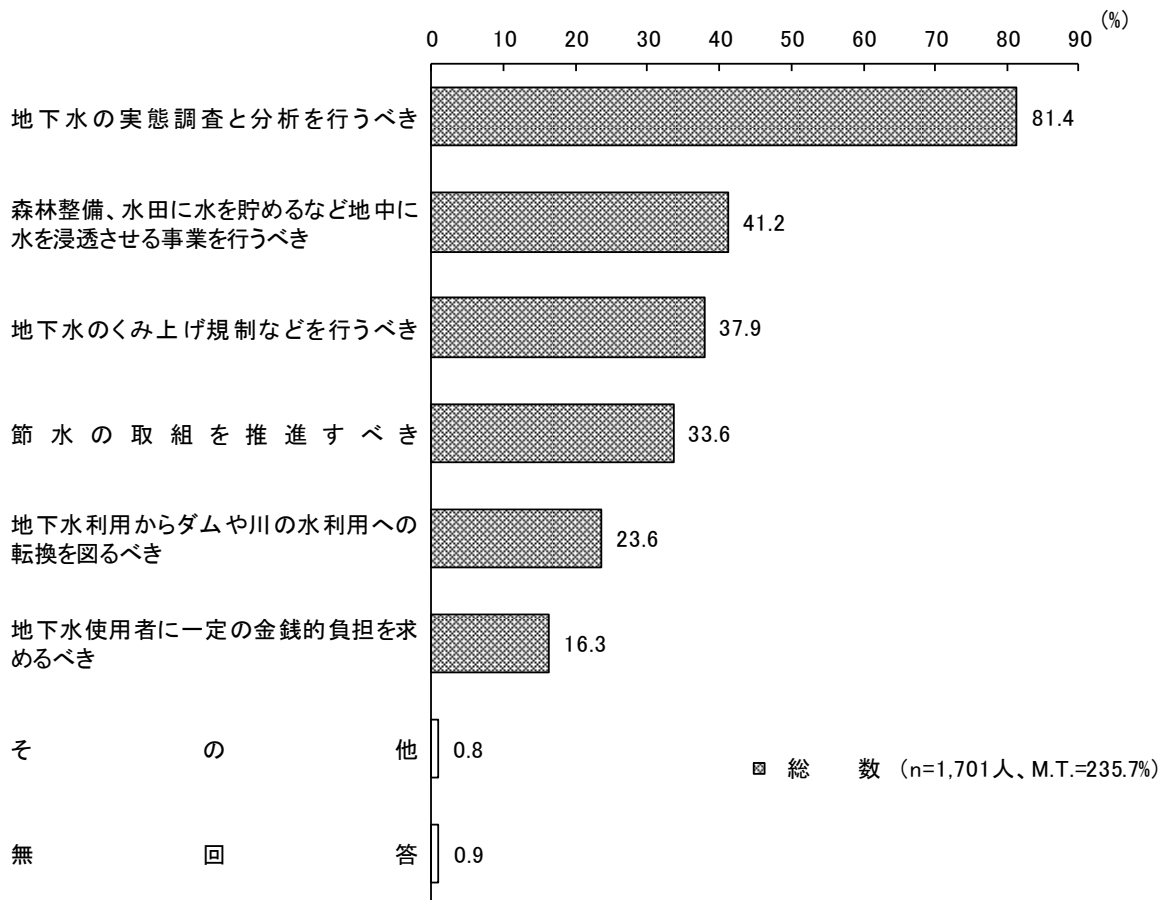
表５　行政が行うべき取組

（複数回答）

	該当者数	地下水の実態調査と分析を行うべき	森林整備、水田に水を貯めるなど地中に水を浸透させる事業を行うべき	地下水のくみ上げ規制などを行うべき	節水の取組を推進すべき	地下水利用からダムや川の水利用への転換を図るべき	地下水使用者に一定の金銭的負担を求めるべき	その他	無回答	計 (M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,701	81.4	41.2	37.9	33.6	23.6	16.3	0.8	0.9	235.7
〔性〕										
男性	835	80.7	42.3	40.1	31.7	26.3	17.7	1.1	1.0	241.0
女性	866	82.1	40.2	35.7	35.5	20.9	14.9	0.6	0.8	230.6
〔年齢〕										
18 ～ 29 歳	166	78.3	39.2	24.7	25.3	23.5	12.7	－	0.6	204.2
30 ～ 39 歳	222	81.1	33.8	32.0	31.1	25.2	15.8	0.5	－	219.4
40 ～ 49 歳	281	82.6	34.5	39.5	28.1	23.5	17.1	1.8	－	227.0
50 ～ 59 歳	295	83.4	36.6	39.0	32.9	23.7	18.6	0.3	0.7	235.3
60 ～ 69 歳	298	85.2	48.3	38.6	37.9	22.5	17.1	0.7	0.3	250.7
70 歳以上	439	78.1	48.3	43.5	39.2	23.5	15.3	1.1	2.5	251.5

地下水に関する世論調査

令和３年９月

（n＝1,701）

ここからは、地下水についておうかがいします

問１．あなたは、地下水についてどのようなことを知っていますか。（○はいくつでも）

（69.3）　**１**．夏は冷たく冬は温かい水である
（52.4）　**２**．川や湖などにつながっている
（44.3）　**３**．ペットボトル入りの飲料水の原料となっている
（26.7）　**４**．積雪地域で消雪用水として用いられている
（44.2）　**５**．地下水の過剰採取が地盤沈下や塩水化などの障害を引き起こしている地域がある
（42.9）　**６**．化学物質などによる地下水汚染がみられる
（28.2）　**７**．都市化に伴い湧き水が枯れている事例がみられる
（53.7）　**８**．いったん汚染されると回復には長い時間がかかる
（ 1.6）　**９**．その他（具体的に→）＿＿＿＿＿＿
（ 1.2）　　無回答　　　　（M.T.=364.7）

全員の方が【資料１】を読んでから下の 問２ をお答えください

【資料１】
　私たちの生活に欠くことのできない水は、河川、ダム、地下水などを水源としています。それぞれの水源の利用は、地域によって大きな違いがありますが、全国平均で見ると、お風呂・トイレ・キッチンなどで使う生活用水の約２割、工業用水の約３割が、地下水を水源としています。一方で、地下水はその特性として、くみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの問題が発生した場合、回復に長い期間を要します。

問２．あなたは、地下水の保全と利用のバランスについてどのように考えますか。（○は１つ）

（33.0）　**１**．できるだけ保全すべき
（ 9.3）　**２**．どちらかといえば保全すべき
（55.8）　**３**．保全と利用のバランスをとるべき
（ 0.6）　**４**．どちらかといえば利用すべき
（ 0.5）　**５**．できるだけ利用すべき
（ 0.8）　　無回答

問３．地下水は、海などから水が蒸発し、雨となって地表に降り、川や地下水となって海に達する水の循環の一部となっています。あなたは、この水の循環を健全に保つことについてどう思いますか。（○は１つ）

（83.5）　**１**．健全に保つ必要がある
（15.6）　**２**．どちらかといえば健全に保つ必要がある
（ 0.4）　**３**．どちらかといえば健全に保つ必要はない
（ 0.1）　**４**．健全に保つ必要はない
（ 0.4）　　無回答

次のページの 問４ に進んでください

全員の方が【資料２】を読んでから下の 問４以降をお答えください

【資料２】
　地下水は身近な水源として広く利用されていますが、くみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの問題が生じる場合もあります。こうした地下水の問題に対して、その予防や解決のため、行政が地下水の調査・分析を行い、企業や住民などの地域の関係者とともに対応を協議し、それぞれが行うべき取組を行っている地域もあります。

問４．あなたは、行政が地域の関係者とともに地下水の問題を予防・解決する取組を行うことについてどう思いますか。（○は１つ）

(79.9)　**１．** 必要と思う
(18.2)　**２．** どちらかといえば必要と思う
(0.8)　**３．** どちらかといえば必要と思わない
(0.2)　**４．** 必要と思わない
(0.9)　　無回答

問５．あなたの住んでいる地域で、地下水のくみ上げ過ぎによる地盤沈下・井戸枯れ・湧き水の枯渇、水質悪化などの地下水の問題が発生した場合に、行政、企業、住民などで構成する協議会などを設置する他に、あなたは、どのような取組を行政が行うべきと考えますか。（○はいくつでも）

(81.4)　**１．** 地下水の実態調査と分析を行うべき
(33.6)　**２．** 節水の取組を推進すべき
(41.2)　**３．** 森林整備、水田に水を貯めるなど地中に水を浸透させる事業を行うべき
(23.6)　**４．** 地下水利用からダムや川の水利用への転換を図るべき
(37.9)　**５．** 地下水のくみ上げ規制などを行うべき
(16.3)　**６．** 地下水使用者に一定の金銭的負担を求めるべき
(0.8)　**７．** その他（具体的に→）＿＿＿＿＿＿＿＿
(0.9)　　無回答　　(M.T.=235.7)